



高野ムツ才選

老衰のわれと住む子や月見草

春日部市 石原江津子

【評】介護のため同居したのか、もともと同居していたのか、いずれでも長寿社会の親子のありふれた関係。だが親として子の将来を思う視線が実に切ない。この月見草は待宵草。

青だけでなき海の色沖繩忌

横浜市 鈴木 基之

【評】沖繩の海は青い。だが、青だけではない色があると指摘されると本当の色を知らない自分が恥かしくなる。慰霊の日ならばなおさら。

唄ひ舞ひそして瞑目沖繩忌

神奈川県 中島やさか

【評】沖繩慰霊の日には島民の一人一人のもの。三線に合わせユンタを唄い、エイサーを踊る。瞑目はその間にすでに心の中で始まっている。

夕焼の先のその先空爆も

川崎市 沼田 広美

子等去つて墨の香残る夏座敷

名古屋市 可知 豊親

くたびれし紐の短きラムネ抜き

大阪市 今井 文雄

ハチローに母の詩ありき梅雨晴間

東京都 近藤 亘代

父の日ややたらと強き風の吹く

行橋市 野田 文子

線香の火を継ぐ通夜の蛙鳴く

大阪市 塚本 宣雄

橋脚は孤城のごとし梅雨の川

北上市 佐々木清志

正木ゆう子選

男梅雨渡り廊下も傘さして

所沢市 岡部 泉

【評】渡り廊下といえは、学校や寺社の状況が浮かぶ。屋根はあるが壁が無い場合、男梅雨の激しい雨だと傘が必要。男梅雨の「男」一字の効果か、清々しい色気のある句。

梅雨寒や主失いし三面鏡

武蔵野市 さざれいし

【評】そういえば実家の三面鏡には小さな椅子がついていて、母専用の場所だった。母が死んだ時、鏡もまた主を失ったのだといま思い至る。手のひらに小さき野生の雨蛙

枚方市 石橋 立明

【評】手のひらにちゃんと乗った愛らしい雨蛙。野生という言葉はもつと大きい生物に使うことが多いが、雨蛙だって、間違いなく野生である。

梅雨晴れや先客あたり精米所

茨城県 杉山 満

点滴のものはや手の甲明易し

青梅市 松野 英昌

本陣の防火用水梅雨ふかし

草津市 堀竹 善子

父の日や笠智衆こそ永遠の父

枚方市 衛藤 聡一

雲切れて麦秋燃ゆる落暉かな

矢板市 鈴木 文代

一群れに咲く立葵孔雀めく

会津若松市 安藤 和繁

紫陽花や世界はつすき硝子玉

羽村市 竹田 元子